

第2回定例町議会

平成29年6月8日に「第2回奥尻町議会定例会」が開会され、1名の議員から一般質問がありましたので、その質疑応答の概要について紹介します。

一般質問

「地域医療構想の方向性と自主性」について



工藤 勇 議員

質問

北海道が示す地域医療構想では（南檜山2次医療圏

＝江差、上ノ国、厚沢部、奥尻）、2025年時点で必要とされる病院のベッド数を2015年比で44%減の245床と推計され、既存の医療機関だけではなく、介護施設などの高齢者福祉や在宅医療体制を充実し、目標を達成させていくという方針を示したことを受け、また、今年度から3年間の改革プランとして「奥尻町国保病院新改革プ

ラン」が策定されました。

自主性を求められている地域医療構想と新改革プランとの整合性について、病院経営の効率化に係る、待ち時間の短縮化などの具体的取組み、南檜山2次医療圏調整会議の主な内容と自主性、在宅医療や在宅介護の実態、そして社会的弱者の入院実態と対応についてご答弁を願いたい。

答弁

地域医療構想では、現在の病床形態を急性期病床、回復期病床、慢性期病床、在宅医療等に病床を転換することとしています。

リハビリテーション科により回復期医療の充実を目指し、療養病床については、回復期病床の転換や在宅医療へとつないでいきます。待ち時間の短縮については、オーダーリングシステムを導入により、かなり短縮されたものと思っています。

新村 卓実 町長

リハビリテーション科の開設で回復期医療の充実を目指す



す。

調整会議の主な内容は、南檜山圏域の人口減少や患者数のバランスの取れた医療体制を構築するための指標であり、患者数に対応して各町自主的に取り組むよう求められています。

奥尻町国保病院は、救急医療体制を堅持しながら、病院建て替えを念頭に病床転換や必要病床を確保していきます。

入院患者のうち、社会的弱者といわれる方は7割程度で、今後は医療と介護の連携による在宅支援をしていきたいと考えています。

「国や道にスルメイカ不漁に対する資源回復の対策要請」について

工藤 勇 議員

質問

奥尻町の基幹産業である漁業（特にスルメイカ漁）の危機的状況を踏まえ、漁業資源回復対策について、また、スルメイカ不漁の要因が資源減少と言われていますが、その原因究明と資源回復対策について、全国離島振興協議会や全国町村会を通じ、要望・要請の考えをお聞かせいただきたい。また、檜山振興局との産業振興対策について、意見交換等がありましたでしょうか、お聞かせいただきたい。

国や道に
要望していく

新村 卓実 町長

答弁

安定的な漁業経営が図られるよう国や道に要望をしています。

資源回復のため要望しておりました漁礁、産卵礁についても、新たにタコ産卵礁が稲穂・勝潤沖に設置予定となっています。

スルメイカ不漁の原因究明、外国船の違法操業の取締りなど、国へ要望・要請

していきたい。

檜山振興局においては回遊魚中心の漁業から養殖への転換を推進しています。意見交換の場は今のところ持たれていません。

奥尻町としては、島の現状を訴えながら増養殖漁業の支援を求めています。

議会運営委員会

6月8日に開会する第2回定例会の議事運営について審議しました。

同委員会は、会期については1日とし、各団体から

要請されていた意見書については3意見書について各委員による提案とすることなどを決めました。

意見書を提出しました

次の意見書を関係機関に提出しました。

◎地方財政の充実・強化を
求める意見書

◎義務教育費国庫負担制度
堅持・負担率1/2への
復元、教職員の超勤解消
と「30人以下学級」の実
現、「子どもの貧困」解
消など教育予算確保・拡
充と就学保障に向けた意
見書

◎平成29年度北海道最低賃
金改正等に関する意見書